

## 基本問題・計画専門調査会（第53回）自由討議における主なご意見

## ○ 現状認識について

- ・社会情勢についての現状認識が重要。社会情勢の変化に伴って、男女共同参画施策も変化していくべき。男女雇用機会均等法施行時の頃は、未婚女性はほとんどが正規雇用で、非正規雇用のほとんどは既婚者だったが、最近では未婚者で無職、非正規が増えているという現状に施策が対応できていないのではないか。
- ・新卒一括採用や正規・非正規の賃金格差など男性がつくった女性差別的なシステムが、現在男性の特権に入れなかった男性にとって厳しいものになっている。男女共同参画を推進することは女性だけのためではなく、そうした男性の特権から外れた男性にとっても有用なものであることを示すべきではないか。
- ・男性のための仕組みが今になって男性特権から外れた男性にとって被害を及ぼしているとのことだが、男女共同参画という視点からは、やはり女性が何層にもわたって差別を受けてきたことを忘れるべきではない。
- ・男女共同参画についての認識について、世代間で格差があるように感じる。世代間のギャップが施策の実効性にも関わってくるので注意を向ける必要があるのではないか。
- ・昨今、外国人労働者や国際結婚も増え、外国人が日本社会の中に入ってきているが、外国人が日本社会で生活していく上での課題等を把握すべき。
- ・第3次計画を実効性があり、インパクトのあるものにするために、現状認識や課題をしっかりと捉えることが重要。例えば、人口減少社会による労働力の不足、グローバル化による人口流出入、情報化によるインターネットなどメディアの新たな問題の発生など、現状を鋭く分析していくことでもっと分かりやすい内容になる。
- ・貧困や経済格差など日本の社会情勢や現状から具体的な取り組みを導くことで、日本の将来像を描くことができる。

## ○ 構成について

- ・重点分野の分け方については、これまでの踏襲ではなく非正規など今の問題を入れて検討し3次計画としての新しさを打ち出すべき。また分野もさることながら、具体的な成果につながるような推進体制が重要であると考えます。
- ・“重点分野”はいいとしても、“重点事項”という表現の仕方は検討していく必要がある。重点事項と言うより第3次計画での特徴、ポイントというようなものではないか。

- ・重点事項から特に緊急に対応すべき項目を、いくつか特出しする必要があるのではないか。
- ・新たな計画では、現在・中期・長期に分けた将来展望が必要。現在ということを考えてみると、例えば、経済的な困難の問題、中期的には、例えば、「2020年30%」の実現や非正規雇用問題への対応、長期的には少子高齢化と労働力人口の減少といった問題があり、それらをどのように克服するかという視点が必要。
- ・答申の構成については、現状認識を行った上で、課題を抽出し、重点事項や分野の設定となるのではないか。2次計画の重点事項と重点分野の関係は、非常に分かりにくく、混乱を招いている。  
例えば、新たな計画の構成については、法的根拠やGEDAW勧告といった方針に関わるような課題に対し、暴力やワーク・ライフ・バランス、リプロダクティブ・ヘルス/ライツなどの個別の分野をどのように設定していくのかについて考えていくことが必要。
- ・答申の構成については、広報や周知の観点からも、みんなが自分の課題や計画と思えるような、シンプルで分かりやすい構成にすべき。
- ・構成の核となるのは、分野であると思う。分野の設定の仕方としては、例えば、今の世相を反映したことが分かるような分野構成にしてはどうか。

#### ○ 推進手法について

- ・男性と女性が同じである必要はなく、男女を均一化するべきではないと考える。女性であることもひとつの個性であり、そうした個性を輝かせる社会にしていくという視点を持つべきではないか。新成長戦略にもイノベーションが掲げられているが、イノベティブなものを創り上げていくためには多様な人が関わるのが大切であり、だからこそ女性の参画が重要だと言える。「政策・方針決定過程への女性の参画の促進」の中に科学技術も入っているが、もう少し明確に見えるような項目立てにしていくべき。
- ・企業を代表して企業の政策を旗振りする人達を3次計画で巻き込んでいくことが重要。経営者の人からも意見を聞くべき。
- ・各分野で男女共同参画を推進するための手法や仕掛けを明確にすることが重要。
- ・推進体制については、各省庁のヒアリングで省庁間で格差があると感じた。いかに各省庁を巻き込んでいくかが重要。
- ・一人ひとりがどのような意識をもっているのかについても、目標にしていくことができないか。

- ・身近な達成目標を数値化すべき。

○ 各論について

- ・重点事項の考え方について、教育が後退しているように見受けられる。全体として教育における男女共同参画の重要性も強調してほしい。
- ・「生涯を通じた健康支援」については、男女の性差に応じた健康支援というような形でもう少し大きくとらえていきたい。
- ・同一価値労働・同一賃金の問題をきちんと現実の問題として対応できるような形にもっていないと、正規・非正規の格差が身分制度のようになってしまう危険性がある。